

根研究会の組織および運営の体制・今年度の活動について

去る5月15日には、つくば市のアルスホールで第3回根研究集会を開催いたしました。1周年を迎えての記念講演3題と一般講演13題の合計16題の発表があり、参加者も約100名という盛会でした。その様子は5月26日付けの農業共済新聞に「根気よく「根」の研究」として掲載されましたし、今号の三浦さんの報告にあるとおりです。今回の研究集会では初めての試みとして総会を開催し、研究会設立の経緯およびこの間の活動報告や会計決算報告を行なうと同時に、研究会に関する自由な意見交換を行ないました。総会でた大きな問題としては、研究会の体制の問題がありました。研究会発足当時は会員数の増加は全く予想しておりませんでしたが、今回の研究集会を機会に入会して頂いた方々を含めますと、現在会員は約300名となっております。このように会員数が増えてきますと、それなりに組織の体制をきちんとしたものにしておく必要があるのではないかという指摘がありました。確かに、対外的にも組織を明確にする必要に迫られてくるでしょうし、会員が増えて、様々な意見がてきたときにどうするかといったような問題もあります。今のうちに執行部の世代交代がうまくできるような体制を考えいかなければ、研究会の存続自体が危うくなるようなことにならないとも限りません。ただ、発足当時からの編集委員のほぼ共通の理解として、根研究会は既存の学会や研究会をまたぐ組織であること、自由な雰囲気で討論ができることに最大の存在意義があると考えてきました。そのため、組織もできるだけ簡素にして、うるさいことやめんどうなことなどできるだけ避けながら、同時に研究会を民主的に運営するということを目指してきました。すぐに選挙を行なって会長や役員を決めるというようなことを行なえば、会員数の多い研究分野の人たちだけが執行部を形成するというような偏りがでることも予想されましたので、まずアンケートを利用して会員の意見を集約しながら、徐々に研究会の方向が決まってくればと考えていたわけです。しかし急速に会員が増えてきますと、あんまのんびりしたことをいっていられないように思います。現在の編集委員で相談を重ね、できるだけ早い時期に研究会の組織や運営方法について会員の皆様にご提案することができるようになっておりますので、是非、ご意見などを寄せ下さいますようお願い致します。

今年の研究会の大きな活動にIBC（国際植物科学会議）の中におけるワークショップとIBC終了直後に開催する第1回根研究会シンポジウムがあります。いずれもIBCを利用しての行事ではありますが、研究会の力が少しずつついてきたことを示すものということもできます。これらの活動を成功させることができることが今後の研究会の発展に寄与するところが非常に大きいものがありますので、会員の皆様の積極的なご参加をお願い致します。

1993年6月 事務局および編集委員会を代表して 森田茂紀

編集委員： 阿部 淳（幹事兼任）、小柳敦史、加藤 澪、竹中 真、中元朋実、
波多野隆介、森田茂紀、山内 章（投稿原稿は幹事の阿部までお送り下さい。）

事務局：〒113 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部栽培研究室内 TEL：
03-3812-2111内線5045,5465, FAX：03-3815-5851 阿部 淳、森田茂紀